

令和5年度学校自己評価システムシート（県立越生高等学校）

目指す学校像	生徒一人一人の長所を伸ばし、社会で活躍できる「人材」の育成を目指す学校
--------	-------------------------------------

重点目標	1 主体的な学びによる基礎学力の充実と専門的な能力の向上 2 豊かな心と自主的・自立的な態度の育成および進路意識の向上による進路希望の実現 3 保護者や地域と連携した安心・安全な開かれた学校づくり
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	7名
	生徒	5名
	事務局(教職員)	4名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価								
年 度 目 標				年 度 評 価 (1月29日現在)				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> 全体的には学習環境、学習態度ともに良好であるが、ごく一部の生徒に学習意欲の面で不足が認められる。 学期終了後の欠点保有者を対象とした補習については、指導の明確化により前年度よりも徹底することができている。 ICT活用、タブレット端末の本格的な運用等に關する校内体制づくりのため、情報管理部を新設した。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 様々な問題を抱えた生徒の個々に合わせた教科指導を心掛け、引き続き基礎・基本の習得に粘り強く取り組ませていく必要がある。 欠点を取らせないようにするための事前指導に、より重点を置く。 ICT機器が授業に取り入れられている頻度はまだ低い。 学年や教科の連携による、検定試験に取り組みやすい日程調整、補習実施のための担当教員の業務調整を行う。 	○学びの質の向上	<p>①基礎学力不足の生徒に対する補習や課題の適切な実施。</p> <p>②特別な配慮を必要とする生徒への積極的な声掛けによる基本的学習習慣の確立。</p> <p>③定期考査に向けた家庭学習の習慣化。</p>	<p>①②学習内容を理解できる生徒が増えたか。</p> <p>③アンケート結果に生徒の学習習慣の確立が見られるか。</p>	<p>①②学習内容を理解できる生徒が増えたか。</p> <p>③アンケート結果に生徒の学習習慣の確立が見られるか。</p>	<p>全体としてはほぼ達成できている。</p> <p>①アンケートに回答した生徒の83.7%、保護者の84.1%が「学習内容が理解できるようになってきた」ことに肯定的な回答をしている。</p> <p>②74.5%の生徒、61.1%の保護者が「意欲的に学習に取り組むようになってきている」に肯定的な回答をしている。定期考査前に学校に残って勉強する生徒もみられる。</p>	A	<p>○全体的には学習環境、学習態度ともに良好であるが、ごく一部の生徒に学習意欲の面で不足が認められる。「学習習慣は定着してきている(意欲的な学習への取り組み)」についての肯定的な回答は、教員側では43.4%と半分を割り込んでおり、生徒・保護者と教員との認識に差が生じてしまっている。</p> <p>○欠点を取らせないようにするための事前指導に重点を置くことで、結果が出ることで身に付く「自発的」意欲的な学習への取り組みにつなげていきたい。</p> <p>○検定試験を意識した学年・教科の連携や日程調整、特に、補習実施のための担当教員の業務調整というところにまでは至っておらず、担当教員の負担軽減が課題である。</p>
2	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> 多くの生徒が落ち着いた学校生活を送っており、ほとんどの生徒は基本的な生活習慣が身につけている。 きめ細やかな進路指導により、多くの生徒が希望する分野に進路を決めている一方で、自己の適性に合った進路を選択するのに時間がかかる生徒もいる。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 特定の生徒に欠席や遅刻が多い状況にあり、内面的な問題を抱えている場合が多い。 進学先や就職先の情報を自主的に収集・分析できる能力を身に付けさせる必要がある。 	○基本的生活習慣の確立と規範意識の向上	<p>①家庭との連絡を密にするとともに、教員間での情報共有と共通理解に基づく指導。</p> <p>②挨拶の励行と言葉遣いの日常的指導の実践。</p> <p>③部活動に参加できている生徒たちへの、最後までやり通すための声掛け。</p> <p>④SC・SSWの活用、及び状況に応じた地域自治体との連携。</p>	<p>①欠席、遅刻、早退数は減少したか。</p> <p>②日常生活の中で積極的に挨拶を身に着けているか、良好な人間関係を作られているか。</p> <p>③④人間関係を構築するスキルを身につけることができているか。アンケート結果に生徒の自己肯定感の向上がみられるか。</p>	<p>①欠席、遅刻、早退数は減少したか。</p> <p>②日常生活の中で積極的に挨拶を身に着けているか、良好な人間関係を構築するスキルを身につけることができているか。アンケート結果に生徒の自己肯定感の向上がみられるか。</p>	<p>全体としては概ね達成できている。</p> <p>①「欠席・遅刻をしないで登校している」と回答している生徒は66.8%と、昨年度の72.5%と比べると5.7ポイント減少してしまった。</p> <p>②挨拶をする習慣はほとんどの生徒が身につけている。81.3%の保護者が「基本的生活習慣を身に付けている」と回答している。</p> <p>③④生徒の64.6%が「部活動に積極的に参加している」としており、高校生活を通じての自己肯定感の向上や人間関係の構築が認められる。また、同様の回答を保護者の72.8%がしていることから、中学時代と比較した上での良好な変化がみられるものと思われる。学習サポーター3名、日本語支援員、毛呂山特別支援学校コーディネーターも活用している。教育相談推進委員会の活動成果として、73.3%の生徒、82.8%の保護者が「学校の支援体制は充実している」と回答している。</p>	B	<p>○特定の生徒に欠席や遅刻が多い状況にあり、いずれも内面的な問題を抱えている場合が多い。家庭環境の問題等、必要に応じて地域自治体とも連携し、継続して外部専門家との協力体制を構築していく。</p> <p>○部活動に精力的に参加できている者については、引き続き継続して取り組み、最後までやり通すように声掛けを行っていく。</p> <p>○『9限目の教室』の探究活動を通して、進路選択につなげていく。同時に、地域との連携を強め、生徒の進路選択の幅を広げていく。</p> <p>○自己の適性を理解し、進学先や就職先の情報を自主的に収集・分析できる能力を身に付けさせる必要がある。主体的な進路選択が必要である。主体的な進路選択ができるよう、学年・進路指導部が連携し、保護者の理解と協力を得ながら、面接指導等を通じて生徒の自己肯定感を培っていくことが課題である。</p>
3	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の作品を展示してもらえる地域施設との連携等、美術科の活動を中心に広報活動の推進は図れたが、HPによる情報発信がまだ不十分である。 渉外部を通し、PTAとは適宜情報交換することができている。 学校説明会は、コロナ禍にあって、リモート形式や学科毎に時程を変える等の工夫を行ったが、募集人員確保は厳しい状況が続いている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本校HPについては、更新頻度と早期掲載を意識し、誌面の充実を図らなければならない。 広報活動として、地域の中学校・大学との交流事業等も検討していく必要がある。 学校行事でのふれあいや作品展示など、「実際に見てもらう」機会をつくることで保護者・地域との連携を強化する。 学校説明会は昨年度同様の回数を維持しつつ内容の改善と告知の早期掲載に努め、募集人員の確保を実現する。 	○教育活動の積極的な情報発信	<p>①学校の教育活動に関するHPの更新。</p> <p>②学校行事への関心を高めるための、PTA会員への連絡、情報発信。</p> <p>③生徒及び保護者が参加できる地域行事についての情報収集。</p>	<p>①随時更新できたか。</p> <p>②③PTA会員や地域に理解・協力を得ることができたか。</p>	<p>①随時更新できたか。</p> <p>②③PTA会員や地域に理解・協力を得ることができたか。</p>	<p>全体としてはほぼ達成できている。</p> <p>①回答した生徒の75.7%、保護者の80.9%が「学校からの配布物、HP、メール配信による情報発信は役に立っている」と回答している。また、HP上に出欠・遅刻連絡入力フォームを設けたことについては、保護者アンケートの99%が肯定的であった。</p> <p>②③4・5・8月PTA後援会理事会、5月総会、6月体育祭補助、8月ものづくり研修、9月白梅祭参加等、年間計画に基づき連携を深めることができた。また、美術科は越生町観光協会と連携し、駅構内での作品展示や階段装飾の計画を進めた。生徒会を中心に地域のボランティア活動・清掃活動にも参加した。「越生高校は地域から理解されていると思う」と75.7%の生徒、86.7%の保護者が回答している。</p>	A	<p>○美術科や総探委員会の立案に基づく活動、及び生徒会による活動を中心に、地域との連携や広報活動の推進を図ることができている。また、その内容についてHP上で発信することもできた。</p> <p>○PTA・後援会活動については、次年度年間計画の見直しとともに、保護者の参加者数を増やすことを検討していきたい。</p> <p>○学校説明会は、コロナ禍での経験を活かして、リモート形式や学科毎に時程を変える等の工夫を行い、内容の改善と告知の早期掲載を実現することができた。</p>
		○募集人員の確保	<p>①HP上での、本校の教育活動についての公開と情報発信。</p> <p>②学校説明会の計画的な実施と、外部の説明会への積極的な参加。</p>	<p>①HPの更新頻度を維持することができたか。</p> <p>②学校説明会を計画的に実施できたか。</p>	<p>全体としてはほぼ達成できている。</p> <p>①学校長自らが「校長便り」を84回更新(1/29現在)し、本校の日々の取組を写真とともに積極的に発信した。HP上で必要な情報へスムーズにたどり着けるよう、新設された情報管理部がHPのフレームやデザインの見直しを図っている。毎週1回は更新が行われ、週間予定や各部活動の様子、学校行事などの内容をその都度HPに掲載することができた。</p> <p>②5回の学校説明会、2回の進学フェア参加、夏の部活動体験を計画、実施し、昨年度を上回る参加者・来校者があった。</p>	A		

学 校 関 係 者 評 価
実施日 令和6年2月1日
学校関係者からの意見・要望・評価等
<ul style="list-style-type: none"> ・子供が越生高校の美術科を卒業している。だから(課題への取り組み等、授業が)大変なことも十分わかっているが、そんな中でも是非「楽しんで」学習活動に取り組んでもらいたい。 ・資格試験受験者が少ないのは(受けている資格が商業系中心だからではあるが)、どうしてなのかなと(もっと多くてもいい)思ってしまう。生徒自身が自分の進路を意識する時期とも関係していると思う。 ・(大人になってわかることだが)様々な資格は、高校生のうちにとっておいた方がよいと思う。 ・越生高校に入って学習の取り組みが良くなった理由はどこにあるかを聞きたい。(以下、生徒の返答)学年が上がるにつれて、自身の技術も上がってきていることが実感できるからだと思う(美)。少人数のおかげ。先生に質問しやすい。中学時代よりも勉強に身が入る(普)。 ・(家で子供も言っていたが)やはり少人数(授業)はよい。 ・「おはようキャンペーン」をやっていたので、生徒の皆さんの「挨拶の定着」は実感している。今後はぜひ、登下校の折に、地域の方々に対しても挨拶をしてほしい。 ・(資料にある総探委員会の)「目指す生徒像」がとていい。意識して生活していることも十分伝わってくる。(「見通しを立て、失敗を恐れずに行動できる人間」とあるが、)失敗が悪いわけではなく、それを生かせばよい。 ・「地域にとけ込む」活動は、将来ではなく、今しかできない。ゴミを捨ててくれている生徒さんたちや生徒会の活動にも感謝している。 ・今年、門松をいただいたが、よくできていて本当にびっくりした。また、こうして実際に中に(校内に)入ってみると、越生高校の良さがわかる。 ・生徒さん達には、学校からのお知らせは、親に早めに出してほしい。出すのが遅れる、あるいは出さない、という子供たちもいる。 ・七福神のパネルや大クスの木のデザイン等、多くの作品を手掛けていただいている。今後は太田道灌等にも触れ、引き続き「地域から見た美術」という視点から、作品に取り組んでいただきたい。 ・鳩山高校も地域と積極的な交流活動に取り組んでいると聞いている。令和8年度に向けて、越生高校もさらに取り組んでいけたらよい。 ・今年度の白梅祭では、外部の方を活発に呼び入れて実施していた。来年度に向けて、より多くの方を呼び入れるための意見・提案を(PTA・後援会にも)早めにいただけたらと思う。 ・越生高校は地域から理解されていると、本当に思う。山吹公民館の活用等も検討し、「街づくり」を進めていただきたい。 ・地域への学校公開を早速実施していただき、感謝している。参加者にも好評だった。灯籠祭りの際のポスター作り等も感謝している。